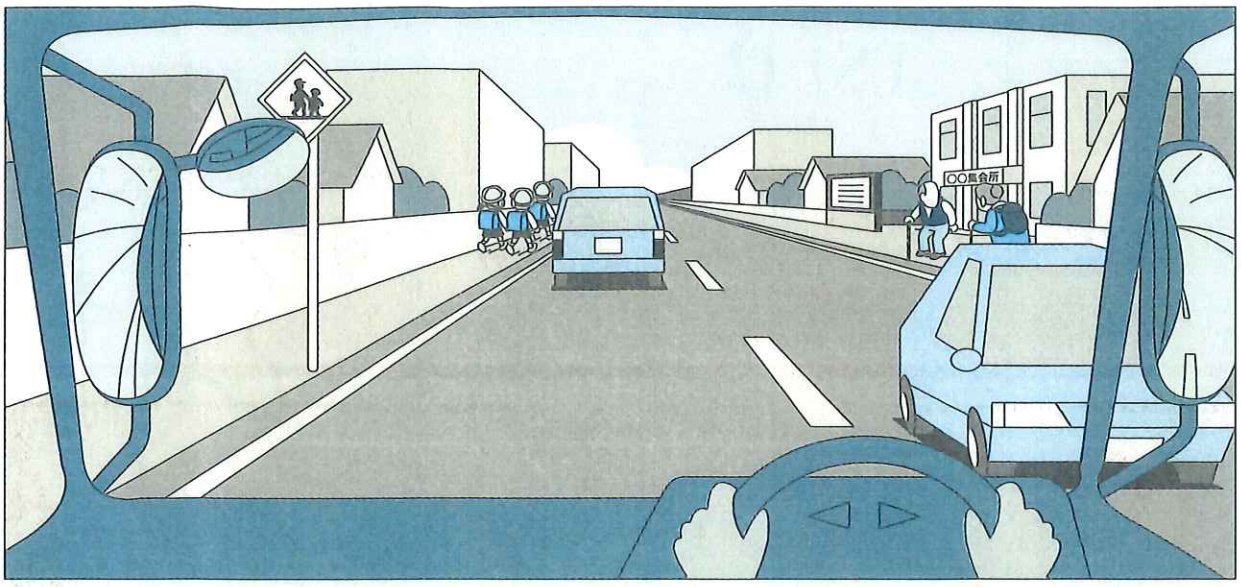
危険予知訓練（KYT）シート：交通事故防止編

あなたならどうしますか？

〔秋の全国交通安全運動特別編②〕
「下校時間帯の通学路」

状況

あなたは前車に続いて狭い片側１車線の通学路を走行しています。右側の集会所の前では高齢者が話をしています。また、左側には友達と遊びながら下校している小学生がいます。この場面にはどのような危険がありますか。危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



◆どのような危険がありますか？

◆どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

（解説・2面）

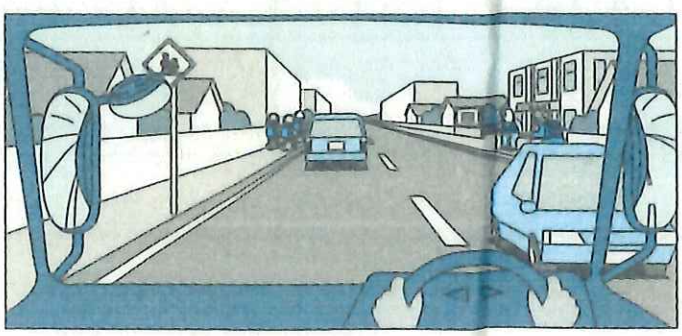
（6面）

危険予知訓練（KYT）シートの解説

（秋の全国交通安全運動特別編②）

▶交通事故防止編

あなたは前車に続いて狭い片側１車線の通学路を走行しています。右側の集会所の前では高齢者が話をしています。また、左側には友達と遊びながら下校している小学生がいます。この場面にはどのような危険がありますか。危険を避けるためにはどのような運転をすればよいでしょうか。考えてみましょう。



どのような危険がありますか？

①立ち話をしていた高齢者が、突然道路を横断してきて、衝突する危険があります（図１）。
②下校途中の小学生が道路に飛び出し、急ブレーキをかけた前車に追突する危険があります（図2）。
③友達とふざけて自車の前に飛び出してきた小学生と衝突する危険があります（図3）。

どのような運転をすれば危険を避けることができますか？

①集会所の前で話をしている高齢者が見えます。まず、この高齢者の動きに注意しましょう。高齢者の中には聴覚が衰えている人もおり、自車の接近に気づかず、話を終えた途端、道路を横断してくる危険があります。また、直近の車が通過したことで安心し、周辺の安全を確認せずに道路を横断してくることも考えられます。そのため、高齢者の道路横断に備えて、その動静を確認するとともに、スピードを落として慎重に通行しましょう。

②トラックは、運転席が高いことから、上から下を見下ろすかたちになり、手前の路面が広く見えるため、前車との車間距離が短くても、長いように錯覚します。そのため、知らず知らずのうちに車間距離を詰めてしまう傾向があります。万一、前車の前に下校途中の子どもが飛び出してきた場合、十分な車間距離をとっていないと、前車の急ブレーキや急停車に間に合わず追突する危険があります。追従するときは、前車の急ブレーキなどにも対応できるように、意識的に車間距離をとるよう心がけましょう。

③子どもは遊びに夢中になると、周囲の安全確認が疎かになり、車が接近していても急に道路に飛び出してくることがあります。前方に子どもがいる場合は「車の接近に気づいているから大丈夫だろう」と油断せず、飛出しを予測しながら徐行しましょう。また、通学路をはじめ、学校、公園や学習塾など、子どもの往来が予測できる場所の周辺では、自車の周辺の安全確認を徹底するとともに、慎重な運転を徹底しましょう。

図１

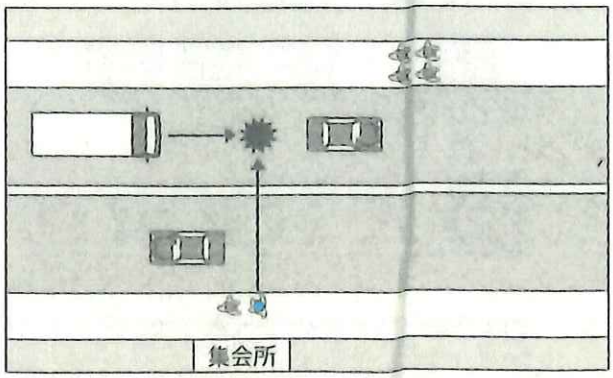


図２

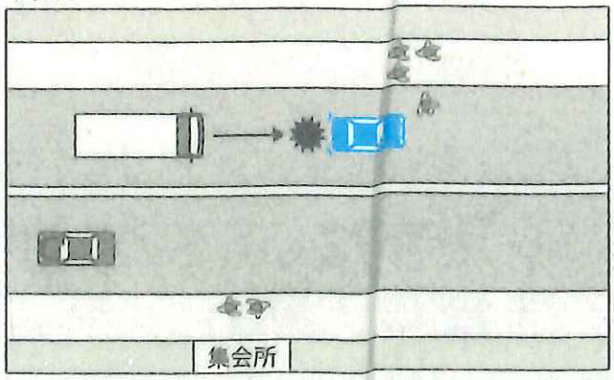
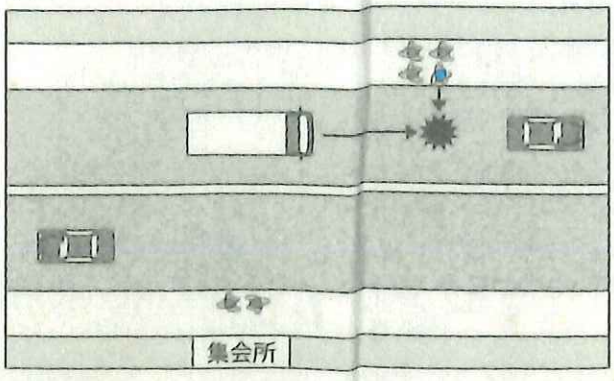



図３